



2005年10月25日  
第17号

# 岡山大学工学部 同窓会報

編集・発行 岡山大学工学部同窓会事務局  
〒700-0081 岡山市津島東2丁目7番17号  
エクセレント津島A201号 ☎(086)255-8311  
印刷所/小野 高速印刷(株)  
〒670-0933 兵庫県姫都市平野町62 ☎0792(81)8837

## TOPICS

挨拶・寄稿 (退職者、社会人、就任者)	1 ~
新任・転任等教員紹介	16
会計報告・45周年事業報告	19 ~
学生支援活動 (ロボコン・フォーミュラ)	23
ホームページ・広報	24

## 「改修の開始と創造工学センターの設置などについて」

工学部長 東辻 浩夫



国立大学岡山大学から国立大学法人岡山大学に変わってほぼ1年半を経過し、法人化に伴う様々な変化の多くが一巡しました。中期目標・計画期間の終期である6年後はまだ少し先ですが、徐々に見通せるようになってきました。詳細は関連する

記事等を参照していただくことにして、まず、最近の状況について簡単にご報告します。

1号館(本館)の改修が始まりました。工学部には、創設時あるいはそれに近い時期に建設された建物があり、それらの大型改修が長年の懸案となっていました。学部では最重要課題として実現を目指して来ましたが、大学執行部のご尽力により、今年度に耐震建物への改修として予算化され、この夏に改修工事が始まりました。今年度は2号館(旧合成化学棟)・3号館(旧電気電子棟)の改修を含む三期計画の一期目であり、1号館の北と中央部分を改修します。学生・教職員にはしばらくの間、工事に伴う不便を忍んでいただかねばなりません。同窓生の方々にも改修後の姿をご期待いただきたいと思います。

今年度から、教員は大学院自然科学研究科の所属となり、工学部に所属するのは技術職員と事務職員となりましたが、工学部の教育は前年度までと同じ体制で実施しています。いわゆる大学院の部局化ですが、残念ながら大学院の部局化開始当初のような予算増を伴うものではありません。また、この機会に、工学部(系)の教育・研究・産学連携をより柔軟に、より効率的に行う目的で、工作センターをその一部として含む「創造工学センター」を設置しました。創造工学センターは技術支援部門、ものづくり支援部門、先端プロジェクト部門I、先端プロジェクト部門II、創造工学・MOT教育部門、の5部門

から構成されます。このうち、技術支援部門には全技術職員が所属し、学科等からの技術支援の要請に応じて業務を行います。学部における技術業務の内容の変化に対応ができる組織となっています。ものづくり支援部門は工作センターの業務を引き継ぎます。創造プロジェクト部門Iには工学系教員が併任として所属し、外部資金を主な財源として一定期間集中して研究を行います。創造プロジェクト部門IIは企業からの技術者・研究者が特任等の適切な職位で大学教員として有期で所属し、工学系教職員と共同研究・産学連携を行うためのものです。創造工学・MOT教育部門は工学部の創成科目のコーディネーション、ロボコン、学生フォーミュラなどの学生の活動の支援、MOT教員の実施を行います。今後、工学系の活動の拠点として発展させるとともに、同窓生の方が教職員・学生と連携するための場とすることも考えております。

工学部では平成12年度から毎年、教育貢献賞を授与してきましたが、これに加えて平成16年度から、ベスト・ティーチャー賞、研究功績賞、社会貢献賞を授与することにしました。このうち、研究功績賞・社会貢献賞は3年毎の全学個人評価に同期して授与します。これらはいずれも各人の活動内容・状況を知ることにより互いに触発することと、優れた活動を積極的に評価するためです。

冒頭で、今後について見通しができるようになってきたと述べましたが、決して楽観はできません。特に、少子化と、運営費交付金の削減の影響は深刻で、これまでの運営にとらわれることなく、広い視野で活性化を図ることが必要であり、工学部として大いに努力いたします。また、同窓生の方々からは様々なご意見・ご提言があることと思います。どうか忌憚なくお寄せくださり、今後とも工学部(工学系)の発展にご協力を賜りますようお願いいたします。

近況のご報告とお願いを申し上げて、ご挨拶いたします。

## 「岡山大学長退任にあたって」

前岡山大学長 河野伊一郎



私は平成11年から17年までの2期6年間、第11代岡山大学長を務め、この度、任期満了で退任いたしました。

この6年間は、国立大学の改革と法人化の議論に始まり、100年に一度の大変革といわれる法人化のスタート

で終わったとって過言ではなく、まさに激動の6年間であったと思います。私自身そうした仕事や生活が決して嫌だったわけではなく、今考えてみれば、結構楽しくやってこられたと思っています。そして法人化についてはいくつかの課題は残しているものの、本学としては比較的スムーズなスタートが切れたと思っています。それは、本学の構成員が岡山大学の实情や国立大学が今置かれている状況をよく理解し、ご協力ご支援していただいたお陰であると深く感謝いたしております。

さて、お話したいことはいくらかもありますが、国立大学の法人化に関して強く印象に残っていることの一つを述べてみたいと思います。

学長就任の平成11年6月14日、文部大臣が直接、辞令を渡すので文部省に来るようにとの連絡があり、その午前中に文部大臣室で辞令を受け取りました。ちょうどその午後には国立大学協会総会（学長の集まり）があり、その夕刻から文部大臣招待の夕食懇談会が開催されました。

文部大臣は、その挨拶の中で「文部省としては国立大学の独立行政法人化には絶対反対である。皆様も是非それを支持していただきたい」と、全員から大拍手があったことを覚えています。

同年の9月、国立大学協会の秋の総会が開かれ、またその夕食懇談会で同じ文部大臣が挨拶をされ、その中で今度は「文部省としては国立大学を法人化することを決意いたしました。私としてはこれのんだのは、国立大学は法人化してもその教職員は今までどおり国家公務員として残すということになったからです……」と。私は呆気にとられたような気持ちになり、誰からも拍手はなかったと覚えています。

そもそも、国立大学を法人化するかしないかは、日本の高等教育そして国立大学はいかにあるべきかの中で議論され判断されるべきところ、単に教職員を国家公務員として残すことに話がついたから法人化するというのは筋違いも甚だしいと思ったからであります。この一事は、国立大学の法人化という大変革が必ずしも十分な教育議論を経ずして、政治

政策主導で始められたことを表していると言えるでしょう。

その後、国大協では国立大学の法人化について大議論となりました。私は、先輩学長にこれまでの国大協の総会はどのようであったかを聞いてみました。すると「こんなに激しく長い議論は初めてで、おそらく国大協始まって以来のことではないか」ということでありました。それ以後、国大協総会で毎回毎度、熱心で激しい議論が続けられたのは当然であります。

そして最後には、国立大学の教職員はすべて非公務員になったのはご存じのとおりであります。何ともやり切れない気持ちが残りました。私の学長就任期間は6年間ですが、その間に文部大臣（後半は文部科学大臣）は代わり代わり7人が務められました。これはやはり異様というべきではないのかと感じています。

さて、私自身は国立大学の独立行政法人化には反対でありましたが、法人化そのものに反対であったわけではありませんでした。なぜなら、欧米諸国の多くの大学はすでに法人格を有しています。法人化そのものは多くの規制緩和がそこに含まれており、それによって、大学の自主性自律性が高まり、より自由でより相応しい、個性ある教育研究が展開できる可能性を持っています。しかし、少なくとも高等教育機関と行政法人とは全く異質なものが数多く存在し、独立行政法人の通則法、個別法で大学を規定することは極めて不合理と言わざるを得ません。結果としては、十分か不十分かは別として、国立大学は国立大学法人として再出発することになったのであります。

もう一つ前述したように、これほどの大変革をするには、そもそも日本の高等教育はいかにあるべきかの議論や検討があり、高等教育のグランドデザインがあってその上で国立大学のあり方を議論し、その設置形態が決定されるのが順序というものであると思っています。

現実はその順序が逆になっており、高等教育のグランドデザインがやっと近々決定されようとしています。しかし今となっては、時代に相応しく、将来を見通した立派なグランドデザインが構築されんことを切に願っています。

最後に、今後、岡山大学のすべての構成員、そして関係者がこよなく岡山大学を愛し、それぞれが全力を持って使命を果たし、「個性輝く魅力ある岡山大学」(Ambitious and Attractive OKAYAMA University)を構築されんことを期待いたします。

## 「岡山大学での思い出」



平成17年6月13日をもって岡山大学理事・副学長の任期を満了し、これを期に岡山大学を退職致しました。昭和41年4月に創設3年目の生産機械工学科工業経営管理学講座の助手として

採用されてから39年2ヶ月、多くの方々、学生諸君との思い出は沢山あり、その中から幾つかについて書きます。

私は、昭和34年岡山大学理学部数学科に入学し、現在の工学部本館の位置に有りました兵舎の校舎に数学科があり、そこで専門の講義を受けました。入学当時は殆ど高い建物がなく、のんびりした雰囲気です。昭和39年に大学院の設置が進んでおり、学科主任の増田勝彦教授（後名古屋大学に御転勤）から、進学についての勧めがあり、岡山大学大学院理学研究科の第1期として5月に入学しました。あの時増田教授からの勧めがなかったら、私は全く違った人生を歩んでいたことを思うと、増田教授に感謝しています。

大学院では統計学を専攻し、竹之内脩教授の指導の下に統計理論を勉強しました。当時竹之内教授が、多変量解析の手法を岡山大学に導入されたばかりのコンピュータ（NEAC-2203）を用いて、医学部第一内科小坂淳夫教授（後岡山大学長）と「肝臓のコンピュータによる鑑別診断」について共同研究をされていました。統計理論の実際問題への適用については、竹之内教授が在学中に大阪大学に転勤になり、後を私が引き継ぎ当時メモリ2kのコンピュータの機能をフルに活用したプログラムを開発し、研究の手伝いをしたことに始まります。この過程で若い医学部の方々は、患者を診察し、診察の状況をデータから分析し研究論文にまとめ、投稿されていることを知りました。また研究では他の専門分野の先端的な知識も必要で

前岡山大学理事・副学長 大崎 紘一

あることを経験しました。そして、私が工学部に就職し、菊池進教授に「工学は現象を見えるようにし、測定し定量化することです」と云われ、私の短い期間での経験と一致しており、現在まで生産活動の現場を見ながら他の分野の専門知識も活用して研究教育を続ける原動力になっています。

また修士課程で殆ど独学で勉強したコンピュータの知識と統計手法のコンピュータプログラムは、私の工学部での生産管理に関する研究教育のバックボーンとなり、生産機械工学科のコンピュータに関する講義、実験への導入、後の工学部での教育用CADシステム、システム工学科におけるロボットの導入に大きく貢献しました。特に菊池進教授に、就職した当初「将来工学分野で身を立てるのであれば、工学の基礎である設計学、材料力学を勉強しなさい」と云われた言葉に従い、設計学、材料力学を勉強したおかげで、コンピュータ支援設計、材料設計学（CAD/CAM）の教育や最先端のCAD支援生産管理システムの研究を行うことができました。

昭和39年設置の生産機械工学科、昭和62年からは再編された機械工学科、平成8年からは新設したシステム工学科において、一貫して生産管理に関する研究教育を行い、大量生産方式、多品種少量生産方式、一品一品生産方式において、人、機械、ロボットの特性を生かした生産性向上のための作業設計法について研究を行ってきました。

昭和43年から大学紛争の終わる昭和48年頃までの生産性向上に関する研究テーマは、設備、装置の不足から、県内の多くの企業に現場の提供を頂き、卒業研究や研究を進めました。その後、昭和50年代からのコンピュータ支援生産システム、画像認識による品質検査手法及び装置、そして一品一品生産対応知能ロボットシステムの研究では、外部研究資金を受け入れることができ、研究室での研究成果を生産現場に適用させて頂く場としての企業の現場との関係で、研究教育を進めて



います。これらの研究成果により、日本経営工学会から若手研究者の論文奨励賞、研究室としての論文賞、私が学会賞の受賞の栄誉を受けました。

昭和50年代の前半までは産学官連携という用語はありませんでしたが、学問分野の関係から既に40年代から連携して教育研究を進めていたものと懐かしく思います。この経験は大変貴重で、地域共同研究センター長として研究協力会の設置、学部長として岡山経済同友会とのインターシップ協定の締結、副学長として岡山大学知的財産本部の設置など、産学官連携を行う原動力になりました。

生産機械工学科の昭和43年卒業の一期生から昭和61年3月までは菊池進教授、それ以降私の研究室を卒業した学生は、500名に達そうとしています。広い分野で活躍してくれており、特にコンピュータ関連、生産技術関連の仕事をしている人が多いと思います。よく研究室に連絡をしてくれる卒業生は、残念ながら数が少なく、多くの卒業生は工学部、研究室への帰属意識は低いのか、一度も工学部、研究室に連絡をもらえない人もあり、仕事の分野が違ってても何かの接点があるのに、少し残念な気がします。しかし同窓会の東京支部の集まりに出席させて頂いたおかげで、東京支部の皆さんのご協力をえて、岡山大学東京サテライトオフィスの初代マネージャーに坂東靖夫氏をお願いすることができ、紙面を借りて東京支部の会員の皆様にご協力のお礼と、卒業生の皆さんに工学部、東京サテライトオフィスに御連絡を頂きたいとお願いする次第です。

最後になりますが工学部に在籍中の出来事で、特に記憶に残っていることとして大学紛争、それに引き継ぎ昭和47年の工学研究科の設置です。修士課程の学生の存在は、教育研究レベルを高めたと感じました。また大学紛争中に菊池教授から「紛争は一時であるから若い人は研究をして工学研究科の資格審査にパスしなさい」といわれました。私の仕事は、何があっても研究と教育であることをポリシーとして現在まで確認をしながら仕事をしてきました。更に昭和61年に大学院博士課程の設置、機械系3学科が機械工学科に再編成、平成6年に環境理工学部の新設に伴い、工学部の

新学科としてシステム工学科を企画・組織構成をし平成8年に設置したこと、そして平成12年には学部長として通信ネットワーク工学科を設置したこと、3学科が日本技術教育認定機構（JABEE）に認証されたこと、であります。特にシステム工学科の設置に当たっては、学科の特徴を明確にするために、ロボットをキーワードにしてカリキュラムを組んだことは、その後のこの分野の発展を顧みると的を得た方策であったと考えています。

以上の工学部での経験から得たことで実践をしている「現象を見ながら真剣に取り組んだ成果は、直ぐには役立たなくても、長い人生では何処かで役に立つ」ことを同窓生諸君への送る言葉として、退職の御挨拶とさせていただきます。

工学部同窓会の益々の発展を御祈念申し上げます。

## 「退職に当たって」

山本 恭二



昭和53年4月から、この3月（平成17年3月）に退職するまで、27年の長きに渡り、工学部において大勢の方々に大変お世話になりました。

私が工学部に参りましたのは、その2年後の昭和55年に工学部創立20周年を祝う行事が、工学部の大講義室で、質素ながら意気軒昂に執り行われた頃でありまして、当時の工学部の印象としては、歴史が新しいこともあり、元気ながら少し学問的雰囲気には乏しいなど感じたことを覚えております。その後、教職員の懸命な努力により、博士課程の設置、工学部の大改組、情報、生物、システム、通信ネットワークといった最先端の学科の新設など、また、学生の修士課程への進学率が6割以上にもなり、多くの博士課程の学生が鋭意研究に励んでいる状況になりましたが、これらのことから、学問的雰囲気も格段に感じられるようになりました。傍から眺めていただけにすぎませんが、このような工学部の大成長の時期に、人生の元気な時期を過ごすことができたことは真に幸いなことであったと思っています。

工学部に参ってから最初の10年程度は共通講座工業数学に所属し、主として機械系、化学系、電気の学科の工業数学を教えました。数学が道具として利用出来るように、また、直接利用する機会が無くても、簡単な論理的思考法を養う訓練ができればと教育を行いました。その共通講座もなくなってしまいました。それのみか教養課程もなくなってしまいました。工学部の全教員は、研究主体の自然科学研究科の所属になりましたが、これらが基礎教育の軽視ということにならないことを希望しています。このところ、大学新入生の学力低下がいわれておりますが、その上、大学での基礎教育の低下が起こるようでは高度な研究や技術

開発も覚束なくなるのではないかと憂慮しています。共通講座及びその後の機械工学科に所属していた間、特別研究、修士や博士の研究においては機械工学科の学生さんと一緒にやりましたが、皆さんよくやってくれました。私自身は、元気な学生さんの若さを貫うことでなんとかやってこれたと思っています。

退職してから早4ヶ月余りが立ちました。辞めた当初は、病気でもないのに一日中家にいて、職場や学校に出かける人の姿を眺めることに何となく後ろめたいような戸惑いを感じましたが、それにもだいたい慣れて参りました。定年退職ということは、一応社会的義務としての役割を果たさねばならないということから解放されると解釈すれば、今後の一日は余得の一日であり、それならば得たものを無駄にするわけには行くまいと、精一杯有意義に過ごしていきたいと考えています。皆様有り難うございました。

## 「退職にあたって」

廣田 和弘



この3月、工学部（システム工学科）を最後に定年退職し、そう長くはない下り坂で気ままな時を過ごしています。こうしている6月、寄稿依頼がありました。当

学部在籍期間は実質6年の短い間で、かかわった学生もそう多くはなく、読者も少ないと思い一旦はご辞退を致しましたが、ぜひということもあって、工学部時代を中心に綴ってみることにします。私はジプシーのように職場を転々として教職38年間を過ごしました。大阪大学タンパク質研究所助手から始まり、California大学San Diego校（医学部、2年余）、岡山大学薬学部、同医療技術短期大学部（現医学部保健学科）を経て、学内配置換えにより上記学科に所属しました。

それまでの研究は、主に生体（血液、尿など）成分の分離・性質および薬物動態の生化学でありました。当学科はロボットとそれに関連するメカトロニクスを研究されている方が多く、この研究テーマ続行では学科に馴染まないと思い、今までの専門を生かしながらここでしかできないユニークなテーマを模索しました。そこで、ロボットに人工（電子）鼻をつけてみればという単なる野望的な発想から（最後までそうであったが）、「においセンサ」をテーマにすることにしました。五感のうちの視、聴、触覚を代行するセンサ情報にしたがってロボットは働くものが多い。においセンサつきロボットは一般的でなく、確かその当時は床面に樟脳（カンファー）を帯状塗布した臭跡（trail）にそって（においを嗅ぎながら）動くロボットをつくったという一例があったにすぎないと記憶しています。

においセンサといっても馴染みがないかもしれません。市販されている都市ガス漏れ警報機や口臭チェッカなどはそれで、半導体（金属酸化物）を用いるものです。私が選んだセンサ種は、においを吸着する薄膜をもつ小さな水晶振動子式です。この膜

ににおい分子が吸着すると、振動子の共振振動数が減少します。この計測によってにおいを数値化し識別します。におい分子は40万種ともいわれ、通常においては混合した分子集団です。たとえば、コーヒーの香りは少なくとも200種の混合ガスで、コーヒー種の微妙なにおい感覚差は特徴的な分子の存在量差によるものと言われます。コーヒー種のにおい識別は、この特徴的な分子をより選択的に吸着する薄膜を化学・生物学的見地から見つけなければなりません。この観点から、化学合成を通して得た物や植物から抽出した物（みかん皮、茶葉など）を膜に用い、膜とにおいの化学構造間における吸着相関の評価を行い、多くの時間を費やしました。定年直前、「電子鼻が拓く将来」と題して最終講義を行いました。日頃、水や空気のように意識の乏しい「におい」に対する関心を工学面から興味をもっていただければと思います。自作した多数の振動子もつ「におい嗅ぎシステム」を講義室に持ち込みデモしてお見せしました。発信回路・FPGAを用いる振動数処理機・PCソフトなどは周りの方のご援助をいただきました。

上の最終講義題目の代わりに、身近なある教授から「将来を嗅ぎ分けるにおいセンサ」にしたという本気ともとれるサジェションをいただきました。こんなセンサができれば、学部・学科の将来をセンシングしてみたいと思うのは彼だけではないでしょう。今、競争する大学は曲がり角にいます。高卒全員入学できる全入学時代はもうすぐで、優秀な学生の確保は一層難しくなります。当工学部においても他から置き去りにされないために、いま何をして、いま何をしてはならないかを早期に発見・実施しなければなりません。最後に、同窓生にはいつまでもプライドがもてる母校であることを、また日本の将来をつくる現学生には差し詰めGood jobにつけることを願ってやみません。



丸く見える電極上に「におい吸着膜」をもつ水晶振動子



## 同窓会の皆様へ STUDENT OF LIFE

---

名合 宏之

皆さんお元気ですか。私はこの3月に定年退職しました。岡山大学には1975年から2005年まで30年にわたって勤めさせていただきました。そのうちの20年を工学部土木工学科で過ごしました。赴任した当時は私もまだ若く、学科が設立された当初の独特の活気に満ちた雰囲気の中で、研究と学生さんたちとのコミュニケーションに明け暮れたことを懐かしく思い出します。時代背景をうけて10年前に土木工学科は環境理工学部環境デザイン工学科に移行しました。新学科では、現代の環境問題についてより深く学ぶことに重点を置きましたが、学生さんに対しては、その目指すところは「市民にとってより望ましい公共施設整備のあり方を探る」という土木工学の目標と同じだということをお伝えしようとしてきました。しかし、新学科の学生さんたちの間では「土木」と「環境」を対立概念のように捉えるきらいがあり、この基本的な目標をあまりうまく伝えられなかったように思えるのは少し残念な気がしています。

ところで、私はいまケンブリッジの英語学校にいます。何をいまさらとお思いの方も多いと思いますが、listeningとspeakingに少しでも慣れることが出来ればという気持ちで恥も外聞もなく飛び込んだわけです。ここには実に多くの国々の老若男女が英語の勉強に来ています。といっても高校の高学年から大学を卒業して間なしという若い人たちが大部分ですが、ビジネスマン（ウーマン）や各国の英語教師なども熱心に勉強しています。私が最高齢かと思いきや、「70の手習いですわ」とおっしゃる元気な日本男性や、退職されてから毎年2、3ヶ月勉強に来ておられるという年配の方などがおられ、あまり年齢のことを気にしなくなりました。しかし、バスの中で見知らぬ若い学生さんに席を譲られたときは、初めての経験だったので一瞬戸惑いましたが、ああそうか私は年寄りなんだと気づき素直に席に着きました。

あるときパブで飲んでいましたと、かなりでっか

いおじさんが話しかけてきました。聞くところによると、「俺はテムズ川で渡しの仕事をしているが、俺で7代目だ。そしてここにいるのは俺の子供たちだ。今日はロンドンから遊びに来てるんだ。」というので、ほうなかなかいい雰囲気だなと思っていると、「ところでお前は何をしているんだ」ときた。

そこで「今まで教師をしていたが、いまはリタイアして英語学校の学生だ。」と答えると、間髪をいれず「俺も学生だ。student of life」と返って来た。これはまさに言いえて妙なりという感じがいたしました。私もこれからの人生をstudent of life という気持ちで過ごしていきたいと考えています。

卒業生の皆様にはますますのご発展とご活躍を心よりお祈り申し上げます。



## 「大崎紘一先生のご退職によせて」

システム工学科 梶原 康博

大崎紘一先生は、本年6月13日をもって岡山大学をご退職されました。

先生は、昭和41年4月に工学部生産機械工学科に助手として着任されました。昭和43年に講師、48年に同助教授、61年に教授に昇任されました。そして、平成4年4月から6年3月まで岡山大学評議員、平成6年4月から10年3月まで岡山大学地域共同研究センター長、平成10年4月から14年3月まで工学部長、平成14年4月から15年3月まで岡山大学長補佐、平成15年4月から平成17年6月まで理事・副学長を歴任されました。先生は、本学における39年の間、「専門知識とともに社会・環境に配慮のできる学生の育成」、「外部評価、外部資金を推進力とする教育研究体制の確立」、「地域貢献」、「部局、学科に捉われない個性ある教育研究組織作り」を意識してこれまでの重責を務められました。

研究面では、日本における経営工学の学問的発展を導いた中心的研究者として活躍され、主として人の作業能力および技能の分析と評価を中心に研究をされました。研究成果は多くの企業において作業工程の設計開発に適用されており、本学の社会貢献実績を高めることにも貢献しています。特に、1990年代には人の作業能力に関連する視覚に着目し、画像処理を用いて視覚による認識過程を自動化する研究をされました。この研究成果は、製造業における検査および組立作業の品質の向上、および作業の自動化に大きく貢献しています。先生の一連の研究が評価され、日本経営工学会から平成13年に論文賞、平成15年に学会賞を授与されました。また、日本経営工学会副会長、多数の国際会議の実行委員長および指導的役割を果たされ、岡山大学を国際的に認識させる上で多大な貢献をされました。

教育面では、工学部在任中に修士100余名、博士11名を指導され、多数の有為な人材を社会に輩出されました。

大学運営の面では、岡山大学地域共同研究センター初代センター長として協力企業の開拓をされ、研究協力会の設立、産学官連携の基盤づくりを担われました。工学部長在任中には、3教育プログラムのJABEE認定における主導的役割を果たされました。

また、本年6月には、岡山大学名誉教授の称号を授与されました。先生が岡山大学時代に築かれた数多くのご功績に対して改めて感銘を受けますとともに、これまでのご尽力に深謝いたします。これからもご健康に留意され、ご活躍されますことを祈念いたします。



## 「山本恭二先生のご退職によせて」

機械工学科 柳瀬眞一郎

山本恭二先生は、平成2005年3月31日に岡山大学工学部教授をご退職になり、現在岡山大学特任教授をされています。先生は、1966年3月、京都大学大学院工学研究科修士課程を修了され、直ちに京都大学工学部航空工学科の助手になられ、その後1969年、同講師に昇任されました。また1978年に岡山大学工学部に助教授として赴任され、1980年には教授に昇任されました。この間1974-75年には2年間に渡りヨーロッパで研究のために留学されました。また、1998-99年には2年間岡山大学工学部の評議員を努められ、京都大学工学部、岡山大学工学部に大きな貢献をされました。

山本先生のご専門は、最も中心となるのは気体を連続体としては扱えないようになるような希薄度の高い気体流の力学で、この分野では世界的権威の一人として長年にわたり活躍され、主要な国際会議には欠かさず参加されていました。もちろん、山本先生の守備範囲は広く、管内流の解析や実験、円柱背後のカルマン渦列、可変翼周りの流体の力学など大変多義にわたっています。どのテーマについても非常に新鮮な目で現象を解析・観察され、立派な研究をされていることにはいつも感服いたしておりました。山本先生は元々理論家で、実験はあんまり得意でないと周囲から言われ、御自分でもそうおっしゃっていましたが、実際は実験に対しても非常にアイデアを出されまして、実験を主とする論文は流体の学会で大変高く評価されていることを付け加えておきたいと思います。

大学の運営でも非常にご尽力をされまして、特に、岡山大学工学部機械工学科がJABEEの認定を受ける際、2001年の予備審査のため中心となって働かれました。全く手がかりのないところを暗中模索をしながら、基準の作成、機械工学科の態勢作りなど立派に対応を準備されました。その後、本審査に合格したのはこの予備審査の際の完璧な作業のたまものであり、その点、山本先生の

貢献は大変高く評価すべきであると思われます。

長年御一緒に勤務させていただきましたものから拝見いたしますと、山本先生の個性は一口で言いますとインテリジェントで、シャイで、かつシニカルであると申せばいいように思います。それに付け加えるに大変親切な方であると思います。私は、1980年7月に山本先生から岡山大学工学部の助手として呼ばれまして以来、ずっと多かれ少なかれ山本先生のお手伝いをしてきました。それは大変貴重な時間でありまして、個人的なこととなりますが、私自身の成長を助けていただいたことはいくら感謝してもし過ぎることはありません。まだまだ御元気で、大変明晰な頭脳が御健在ですので、これからもぜひいろんな面で助けていただきたいと都合のいいことを考えております。

## 「廣田和弘先生のご退職に寄せて」

システム工学科 五福 明夫

廣田和弘先生は、平成17年3月31日に岡山大学工学部教授を定年ご退職され、現在は、岡山理科大学工学部応用化学科で引き続き若手技術者の育成にあたられております。先生は、昭和41年3月、大阪大学大学院理学研究科有機化学専攻修士課程を修了され、同年4月に博士課程に進学されました。昭和42年4月には大阪大学タンパク質研究所助手に就任され、生命の起源に関する研究やアミノ酸とペプチドの合成的研究に功績を残されました。昭和49年から2年半の間、米国カリフォルニア大学サンディエゴ校医学部病理学教室に留学され、溶血性貧血機構に関する研究を実施されました。ご帰国後の昭和52年4月、岡山大学薬学部助教教授に着任され、昭和62年4月には岡山大学医療技術短期大学部教授に昇任され、平成10年10月に工学部教授に着任されました。岡山大学では28年間の長きにわたり、3つの学部で多角的な視点から岡山大学での研究、教育、運営等に多くの業績を残されました。

薬学部においては、酵素の精製と性質に関する研究や医薬品の体内動態に関する研究で顕著な業績を挙げられ、中四国薬学会若手薬学賞を受賞されました。また、医療技術短期大学部では、ヘモグロビンの代謝に関する研究を進められ、国内外から高い評価を受けておられます。さらに、工学部にご着任後は、6年余りの短い期間ではありましたが、人工鼻の基礎として水晶振動子を用いたにおいセンサの開発に取り組みされました。特に、におい分子の吸着材料における分子構造と吸着効率との関連性の解明や、複数のセンサを組み合わせたにおい判別手法の確立において、学術的に重要な研究成果を挙げられました。平行して、においセンサシステムの実用化研究を精力的に進められ、先生の最終講義においてプロトタイプの実演されるまでに完成度の高いシステムを開発されました。

工学部に在職中の教育活動としましては、教養

教育科目の「教養現代化学」や「現代化学」をご担当され、また、工学部システム工学科の専門科目の「生体計測学」や「メカノケミカル応用工学」において、主に化学者としての視点からのシステム工学的思考についてご教授いただきました。先生の穏やかで物腰柔らかなお人柄と学問・研究に対する真摯な取り組みとが好対照をなして、学生の人気と影響力には大きいものがありました。先生の講義を受講したり直接研究指導を受けたりして育った卒業生が、今後、多方面で活躍していくことは間違いありません。

また、学内委員を多数お引き受けになられて大学の運営面に直接貢献されるとともに、薬学部や医療技術短期大学部での大学運営のご経験を生かされて、微笑みながら他学部の視点に立ったご意見を述べられるなどにより、間接的に工学部やシステム工学科の運営を支えてこられました。

さらに、学会活動としまして、日本化学会、日本薬学会、国際血液学会、日本味と匂学会や化学センサ研究会などの学会の運営、招待講演や論文査読にご活躍されました。その他、多くの大学や医療教育期間において非常勤講師として講義を担当され、化学の素晴らしさを若人に伝え続けてこられました。

先生は岡山理科大学におきましても、相変わらずの熱意でもって研究教育活動を続けられていると聞いております。これからも益々ご活躍されますことをお祈り申し上げますとともに、先生の岡山大学での多大なるご功績の紹介を通して、先生の岡山大学でのご尽力に対しまして尊敬の念と謝意を表します。

## 「電気電子工学科の近況」

電気電子工学科学科長 高橋 則雄



まず、教職員の異動について平成15年以降の状況を述べます。学科を去られた教職員の方々は、小笠原助教教授（平成15年4月、宇都宮大学に転出）、チコ・ヴァイヤンクール講師（平成15

年4月、共通講座に配置換）、八田和道技術専門職員（平成15年4月、通信ネットワーク工学科に配置換）、小松原均技術専門官（平成16年8月退職）、安原清隆技術専門官（平成17年3月退職）、藤澤悦子事務官（平成15年4月、事務局経理部に配置換）、山下知子事務主任（平成17年4月、大学院医歯薬学総合研究科等事務部に配置換）です。一方、新しく着任された教職員の方々は、塚田啓二教授（平成15年12月）、金錫範助教教授（平成15年10月）、紀和利彦講師（平成16年4月）、中川輝彦技術職員（平成16年12月）です。

研究室所属の事務官の定員が削減されるに伴い、学科内の共通事務を取り扱う学科事務室を、電気電子工学科棟2階B233室（Tel:086-251-8110, 8144）に設けました。

学科を取り巻く環境は、独立行政法人化、大学院の部局化、教育改革などで、ここ数年著しく変化しつつあります。まず、独立行政法人化したことに伴って、管理運営体制、経理システムなどが変わり、予算配分にも競争原理が導入されています。よく言われているように、研究室当たりの配分予算が、法人化前に比べて例えば40%程度減少し、研究室の運営に苦慮している状況です。

次に、大学院が部局化されたことに伴い、電気電子工学科の教員は大学院所属となり、学部は兼任ということになりました。正式な所属名は、岡山大学大学院自然科学研究科産業創成工学専攻電気電子機能開発学講座です。それに伴って、昔からの研究室名（電力工学、電気機器学など）は、表のような大学院の教育研究分野名に変更になり

ました。

また、教育改革を積極的に進めており、毎月2回定期的に行う教育システム検討委員会での教育の改良についての議論、学生が自ら目標を定め、その達成度を半年毎に記入する「学習等達成度記録簿」の導入、卒業研究などの点数による評価、各授業科目の厳密な成績評価、授業参観などを積極的に実施し、平成14年度には日本技術者教育認定機構（JABEE、ジャビーと呼びます）の審査に通りました。これは、電気電子工学科のJABEEプログラムを修了した学生は所定のレベル以上の能力（アウトカムズ）を身に付けて卒業しているということを保証するもので、技術士の一次試験が免除され、修習技術士の資格が得られます。

ところで、平成17年度に工学部本館（1号館）の大型改修工事が始まり、平成19年度には電気電子工学科（3号館）の改修が行われる予定です。このように、学科はどんどん変わりつつありますが、学科の発展のためには、卒業生の皆様のご支援が是非とも必要です。卒業生諸氏のご活躍をお祈り致しますとともに、本学科に対するご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

〈表〉新旧研究室名対照表

新研究室名	旧研究室名
超電導応用工学	電気機器学
電磁デバイス学	電力工学
システム制御工学	電子計測学
波動回路学	電子回路工学
計測システム工学	電子機能工学
能動デバイス学	知能デバイス工学
デバイス材料学	材料物性学
電子物性学	電子物理学



## 「情報工学科の近況」

情報工学科学科長 谷口 秀夫



情報工学科の近況については、第15号において「学科と情報工学に関する最近の話題」と題して、当時の学科長の尺長健教授が寄稿されています。これより2年が経過し、いくつかの変

化がありますので、その点を中心にご報告申し上げます。

最近の教員の移動についてご報告します。第15号の記述にありますように、平成15年前期には教授1名と講師1名と助手1名が着任しました。さらに、同年12月に講師2名（竹内孔一講師と乃村能成講師）が着任しました。その後、平成16年には助教授1名（馬場充助教授）が転出され、講師1名（剣持雪子講師）が退職されました。また、平成17年4月には助教授2名（太田学助教授と田端利宏助教授）が着任しています。現在、馬場充先生は、茨城大学工学部システム工学科教授としてご活躍中です。このような異動により、平成15年度初めから現在までに総計3名の教員を増強できました。現在、教授6名、助教授（講師）7名、助手5名の体制で教育と研究の充実に向けて取り組んでおります。なお、平成17年4月より、教員の所属が大学院になりました。具体的には、岡山大学大学院自然科学研究科産業創成工学専攻（計算機科学講座）です。教員全員が工学部情報工学科を兼担しており、情報工学科としての内容に実質的な変更はありません。

教育につきましては、平成16年3月に新しい教育用計算機システムを導入すると共に、演習と実験の連携強化と内容の充実を図りました。例えば、演習では、演習内容の習得を促し、「こなす」ではなく「できるようになる」を目指しています。具体的には、課題数を削減し、一つの課題に費やす時間を増やしました。特に、プログラミングにおいては、学生と先生が1対1になって課題の結

果を確認しています。また、学生の創造力育成のため、自由課題を設定し、各学生は独自の機能のプログラムを作成するを経験しています。時間割については、①比較的連続して受講できるようにする、②授業科目間での教室の移動を少なくする、③1時限の授業を少なくする（特に、後期）、④5時限の授業を少なくする、⑤演習や実験はできるだけ午後に実施する、を考慮し時間割を再編成しました。

大学院博士前期課程への進学率は5割を超えています。求人状況は、学生一人あたり10社を超えています。つまり、学生が特に選ばなければ未就職になることは無い状況です。多くの会社が大学院博士前期課程の学生を対象としていること、また実際的にも大学院学生が学部学生より早く就職が内定することから、大学院博士前期課程への進学を勧めています。大学院に進学し、結果が明らかな事象を知識として得ること（学部学生時代）から、結果あるいは方法さえも明確でないような課題をどのように検討し解決するかの能力を身につけてほしいと思います。英語の表現力も大切ですが、まず日本語の表現力をしっかりつけさせたいと思います。

社会でご活躍の方々の中には、今までの工夫や検討結果の成果を学位（博士号）としてまとめようと考えている方もおられると思います。各先生方の電話番号やメールアドレスはWebで公開されておりますので、お気軽にご相談下さい。お待ちしております。

最後に、卒業生各位のご活躍を期待して本稿を終えます。

## 「職場報告」



私の所属しております「芝浦メカトロニクス」は、1939年に(株)芝浦製作所を引継ぎ、当初はモータ事業を中心としていたが、1998年に社名を芝浦メカトロニクス(株)と改めるとともに事業基軸を「デジタル時代のインフラプロバイダー」と定め、「すべてに革新を」、「合理性の追求」、「人間性の尊重」を企業行動理念とし、社会構造の変革に対応してエレクトロニクスコンポーネントの製造装置を供給する企業たるべく、大胆な事業構造改革を行ってきました。ここで事業基軸である「デジタル時代のインフラプロバイダー」について説明しますと、近年インターネットやモバイル機器の普及によりグローバルな情報通信時代を迎え、パソコン・薄型テレビ・携帯電話・DVDレコーダといった各種のマルチメディア応用商品やデジタル家電が、日々開発・製造されています。それらを構成するフラットパネルディスプレイ、半導体、光ディスクなど、エレクトロニクスコンポーネントの製造装置を提供する「デジタル時代のインフラプロバイダー」として、事業を通じ豊かなマルチメディア社会に貢献しています。

当社の主な製品としては、「FPD製造装置」「半導体製造装置」「メディアデバイス製造装置」「真空応用装置」「レーザ応用装置」などの装置を扱っております。

FPD製造装置部門は、アレイ工程からモジュール工程にわたって、液晶の他、PDP、有機EL等のあらゆるフラットパネルディスプレイに対応可能な装置を提供しています。

半導体製造装置部門は、前工程から後工程まで

芝浦メカトロニクス(株)

野村 隆 (平成15年3月大学院自然科学研究科  
博士前期課程機械システム工学専攻修了)

300mmウェーハに幅広く対応した特徴ある装置を提供しています。

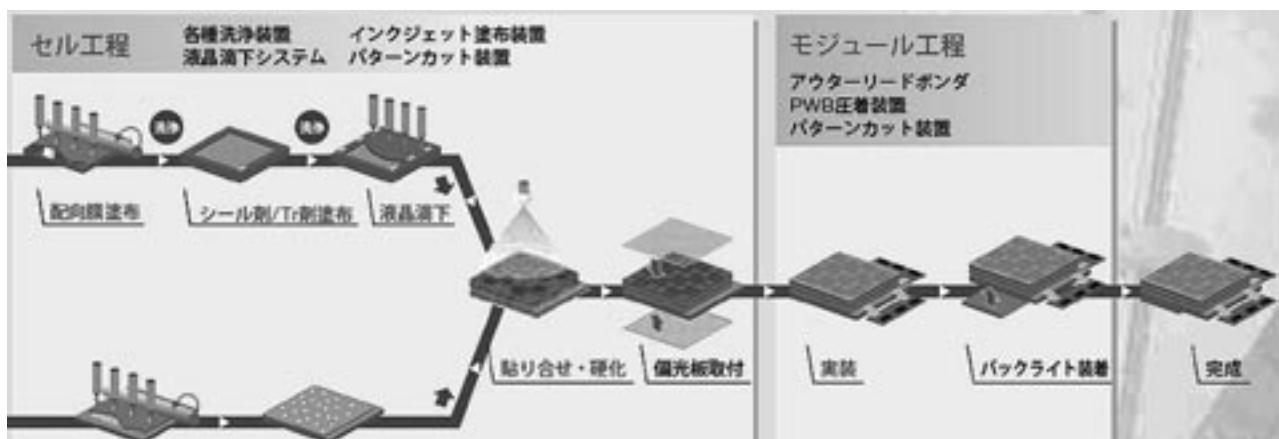
メディアデバイス製造装置部門は、MO・CD・DVDなどの記録メディアを製造するスパッタリング装置および真空貼り合せ装置を提供しています。

真空応用装置部門は、真空技術を応用した装置は電子部品や自動車部品など様々な分野に新たな価値を創造する装置を提供しています。

レーザ応用装置部門は、微細加工技術・光学系応用技術をもとにレーザ加工の新分野で高性能をコンパクトに、より使いやすく、環境負荷を低減した装置を提供しています。

現在私は、FPD製造装置部門に所属し、ソフトウェア設計業務を行っております。私はまだ入社3年目ですが、業務に活かすためのいろいろな経験をさせていただきました。まず入社1年目では、自分の扱う装置を知るため、約1年間現場で試験業務を行っておりました。設計業務に活かすため、自分の手で装置を触り、実機調整および試験を行いました。また試験員の立場として客先現地へ行き、お客様の声を直に聞くことができました。そして2年日以降、ソフトウェア設計業務に就きました。1年目の現場で学んだことは、今の設計業務に非常に役に立っていると自負しております。まだまだ未熟ですが、多くのことを学び日々学習して一人前になれるようにがんばっております。

最後になりますが、当社で扱う装置は街中に売っているような電化製品のように画一的なものではなく、お客様のニーズにあった物を作らなくてはなりません。だからこそ、お客様の声を大事にし、満足させる装置をつくりあげていく楽しみがあると思います。ご関心を持たれた方と一緒に働けることを楽しみにしています。



## 「職場報告」



松下電器産業株式会社は、創業者である松下幸之助氏により松下電気器具製作所として設立されました。創業当時から、電気器具の「アタッチメントプラグ」や二股ソケットの名称で親しまれた「二灯用差込みプラグ」を手がけ、その後、「ナショナルランプ」や「スーパーアイロン」など、生活を豊かにする商品を数多く開発し、これらの商品を安くユーザへ提供することで事業を拡大してきました。現在も創業当初からの精神を引き継ぎ、「人々の豊かなくらしや社会の発展に、価値あるアイデアを提供し続ける」というメッセージを込めた“ideas for life”のスローガンを掲げ、生活を豊かにする商品の開発とリーズナブルな価格での提供を行っています。

一般ユーザの方には松下電器の社名よりも、「Panasonic」や「National」といったブランド名のほうが販売商品群を連想しやすいのではないのでしょうか。グローバルブランドである「Panasonic」では、薄型テレビ「VIERA（ビエラ）」、DVDレコーダ「DIGA（ディーガ）」やデジタルカメラ「LUMIX（ルミックス）」といったデジタル家電などを販売しています。一方、「National」ブランドでは、ユニバーサルデザインのノンフロン冷蔵庫やななめドラム洗濯乾燥機、お掃除ロボット・酸素チャージ機能搭載エアコンなどのアプライアンス商品を販売しています。「National」ブランドは、マーケティング力の集中とブランド価値の向上を目指して、現在では国内のみでの使用となっています。



松下電器の組織は大きく本社部門、研究開発部門、

松下電器産業(株)

平本 琢士 (平成14年3月大学院自然科学研究科  
博士前期課程電子情報システム工学専攻修了)

事業部門、営業部門などから構成されています。私が所属する研究開発部門は、長期的な研究開発を行う先端技術研究所と、中期的な開発を行う開発センター群から構成されています。私は後者の中のネットワーク開発センターに所属し、コンテンツ保護技術の開発に従事しています。コンテンツ保護技術とは、映画や音楽などのコンテンツの不正利用（不正コピー）を防止しつつ、正規ユーザだけがコンテンツを利用できるようにする技術です。これまで松下電器が開発してきたコンテンツ保護



技術としては、SDカードやDVD-R / RAMなどで使われるCPRM (Content Protection for Prerecorded Media)、i.LINK搭載機器間でコンテンツを転送する際に使われるDTCP (Digital Transmission Content Protection) などがあります。私の部署では、これらコンテンツ保護技術の開発を通じて、映画・音楽業界などのコンテンツプロバイダが安心してコンテンツをユーザへ供給できるシステムを提供することで、豊かで便利な暮らしの実現に貢献しています。

私は就職活動中、「専攻している暗号学が生かせる仕事がしたい」と漠然と考えていただけで、松下電器を希望した理由も、会社の規模が大きく暗号学の有名な先生がいる、というものでした。しかし、松下電器は非常に多くの商品を手がけており、漠然と考えていただけの私も、専攻を活かせる職場に配属されました。ですから、学生の皆さんにも専攻や興味に合致する部署は必ずあると思います。少しでも松下電器の商品に興味を持たれたことがあれば、松下電器に入社してみませんか。あなたの“ideas”を商品化していきましょう。



## 「岡山大学理事・副学長に就任して」

岡山大学理事・副学長 稲葉 英男



工学部同窓生の皆様におかれましては、各方面にてますますご活躍・ご発展のこととお慶び申し上げます。この度、工学部同窓会代表幹事である加藤珪一様から就任した岡山大学理事・副学長の業務等の近況について

寄稿依頼があり、工学部で勤務させて戴いた経緯で寄稿を引き受けさせて戴いた次第です。

まず私の工学部勤務に関連したところの自己紹介から始めさせて戴きます。平成元年4月に工学部機械工学科エネルギー工学講座伝熱工学研究室へ赴任し、伝熱工学関連の学部及び大学院の講義そして相変化を伴う蓄熱、伝熱促進や低温環境下の伝熱現象等に関する研究に従事して参りました。この間、工学部関連では工学部内の改組や大学院自然科学研究科の再三にわたる改組などを経て、ご承知のように平成16年4月から独立法人岡山大学の発足となり、工学部の組織運営体制も大きく変化することとなりました。同年4月から副工学部長としての指名を受けて、微力ながら工学部の運営に参画させて戴き、主に産学連携、入試関連や情報関連の業務を担当させて戴きました。情報関連業務では工学部Webサイトの変更、工学部紀要のデジタル化や工学部紹介DVDの更新に工学部教職員と共に関わってきました。同窓生の皆様におかれましては、是非とも新しい工学部Webサイトや工学部紹介DVDをご覧戴きたく思います。平成17年4月から大学院自然科学研究科が部局化され、工学部の全教員は大学院に転籍するとともに学部は学科目制となり、研究大学院大学としての新たなスタートを切りました。

平成17年6月14日から岡山大学は新執行部体制となり、千葉新学長より、学術研究・情報担当理事としての就任要請があり、その責務に応えられるかの不安を抱きながら、私自身の関心の強い分野の担当と言うことで引き受けさせて戴きました。就任後2ヶ月が経過しましたが、担当業務分野の守備範囲が、・研究推進、・産学官連携、・知的財産管理、・国際交流、・付属図書館そして総合情報基盤センター等多岐にわたっており、徐々に業務の本質を理解しつつあります。担当する分野は、岡山大学の教育・

研究環境の基盤となる外部資源（資金以外のものも含む）の獲得や知的財産の創出・管理・発信、知識情報の蓄積や受発信等を業務としており、岡山大学と外部組織とのインターフェイス的役割を担う立場です。

国立大学法人となった岡山大学の運営は、今までの公務員としての「管理」から企業的「経営」の世界へと大きく方向転換する必要に迫られておりますが、教職員の経営的意識改革はこれからの現状です。私の担当業務分野も、企業で言う費用対効果を念頭に入れた営業活動も必要になり、従来にないような運営に対する発想の転換に迫られております。特に、「外部資源獲得」と「経費削減」は車の両輪として、大学運営上欠くことの出来ない事業であります。ご承知と思われませんが、国立大学法人には、効率化対象経費に1%の効率化係数を乗じて、毎年運営交付金が減額されます（平成17年度：前年度比1億6千4百万の減額）。さらに、付属病院は、診療経費に2%の経営改善係数を掛けた経費で毎年運営しなければならぬ厳しさです。

ご参考までに、平成16年度の岡山大学の総収入は、約529億円であり、国から支給される運営交付金は198億円（総収入に対する割合37%）、自己収入（授業料、入学金、付属病院収入等）は、264億円（50%）、私の担当する外部資金（共同研究、受託研究、科研費、寄付金等）は約55億円（10%）です。支出は、業務費（人件費を含む教育研究費、診療経費等）が433億円で、支出全体の87%を占めます。

最後に、同窓生の皆様は、卒業後の岡山大学をどのように感じておられるでしょうか。

現在岡山大学の標語として「人間社会の持続的進化のための新たなパラダイムの構築」を掲げており、「教育を重視した総合大学院大学」を目指しております。特に、岡山大学の改革には卒業生の絶大な支援が必要なことから、現在、皆様の出身学部にある各同窓会を連合した岡山大学連合同窓会（仮称）を立ち上げて、卒業生の皆さんと岡山大学が綿密な連携の上に、輝ける岡山大学を展開する構想を抱いておりますので、ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

工学部同窓生の皆様のご健康と今後のご活躍を心より祈念致しております。

## [新任教員の紹介]

### ○平成16年12月16日付け就任

- システム工学科 システム基礎学講座

東京工業大学 資源化学研究所 博士研究員

助教授 Hossam Abdel Gabbar

- 物質応用化学科 物質物性化学講座

科学技術振興機構 研究員

助手 和久 公則

### ○平成17年4月1日付け就任

- 大学院自然科学研究科 (機械工学科)

新日本製鐵株式会社 技術開発本部 鋼材第一研究部長

教授 瀬沼 武秀

- 大学院自然科学研究科 (情報工学科)

九州大学 大学院システム情報科学研究院 助手

助教授 田端 利宏

- 大学院自然科学研究科 (情報工学科)

東京都立大学 大学院工学研究科 助手

助教授 太田 学

- 大学院自然科学研究科 (機械工学科)

慶應義塾大学 大学院理工学研究科 基礎理工学専攻 博士課程 修了

助手 長谷川 裕之

- 大学院自然科学研究科 (生物機能工学科)

新潟大学 大学院自然科学研究科 助手

助手 早川 徹

### ○平成17年8月1日付け就任

- 大学院自然科学研究科 (システム工学科)

大阪電気通信大学 工学部 講師

講師 前山 祥一

### ○平成17年9月1日付け就任

- 大学院自然科学研究科 (システム工学科)

独立行政法人理化学研究所 脳科学総合研究センター 研究員

講師 水原 啓暁

### ○平成17年9月16日付け就任

- 大学院自然科学研究科 (通信ネットワーク工学科)

岡山大学 工学部 通信ネットワーク工学科 非常勤研究員

助手 五百簀頭 健吾

### ○平成17年10月1日付け就任

- 大学院自然科学研究科 (生物機能工学科)

株式会社日本触媒 先端技術研究所 研究員

講師 二見 淳一郎

## [昇任教員の紹介]

### ○平成16年11月16日付け昇任

- 物質応用化学科 物質反応化学講座  
物質応用化学科 物質反応化学講座 講師  
助教授 黒 星 学

- 物質応用化学科 物質物性化学講座  
物質応用化学科 物質物性化学講座 講師  
助教授 林 秀 考

### ○平成17年4月1日付け昇任

- 大学院自然科学研究科 (生物機能工学科)  
生物機能工学科 生物機能応用化学講座 講師  
助教授 金 山 直 樹

### ○平成17年6月1日付け昇任

- 大学院自然科学研究科 (機械工学科)  
大学院自然科学研究科 (機械工学科) 助手  
助教授 清 水 一 郎

- 大学院自然科学研究科 (機械工学科)  
大学院自然科学研究科 (機械工学科) 助手  
助教授 河 原 伸 幸

### ○平成17年7月1日付け昇任

- 大学院自然科学研究科 (通信ネットワーク工学科)  
大学院自然科学研究科 (通信ネットワーク工学科) 助手  
講 師 豊 田 啓 孝

### ○平成17年8月1日付け昇任

- 大学院自然科学研究科 (システム工学科)  
大学院自然科学研究科 (システム工学科) 助手  
助教授 鄧 明 聡

## [定年、転出、退職教員の紹介]

### ○平成17年3月31日付け定年退職

- 機械工学科 エネルギー工学講座  
→自適  
教 授 山 本 恭 二

- システム工学科 システム応用工学講座  
→自適  
教 授 廣 田 和 弘

### ○平成17年3月31日付け退職

- 大学院自然科学研究科  
(通信ネットワーク工学科 ネットワーク構成学講座)  
→京都大学 大学院工学研究科 教授  
助教授 和 田 修 己

- 大学院自然科学研究科  
(システム工学科 システム応用工学講座)  
→東北大学 大学院工学研究科 助教授  
講 師 永 谷 圭 司

- 共通講座  
講 師 Vaillancourt Chico Kenneth

- 共通講座  
→法政大学 工学部 講師  
助 手 伊 藤 一 之

### ○平成17年6月13日付け退職

- 大学院自然科学研究科 (機械工学科)  
→岡山大学 理事・副学長  
教 授 稲 葉 英 男

### ○平成17年7月1日付け転出

- 大学院自然科学研究科 (通信ネットワーク工学科)  
→岡山大学 総合情報基盤センター 助手  
助 手 岡 山 聖 彦



## [受賞研究の紹介]

職名	所属学科	氏名	受賞名	受賞日	備考
助手	電気電子工学科	西 竜志	スケジューリング学会 学会賞	16. 9. 29	
教授	電気電子工学科	小西 正躬			
助手	機械工学科	出口 真次	第18回日本エム・イー学会秋季大会 研究奨励賞	16. 11. 5	
助教授	物質応用化学科	押谷 潤	日本粉体工業技術協会 優秀研究賞	16. 11. 11	
助教授	機械工学科	榊原 精	軽金属学会 軽金属論文賞 日刊工業新聞社 技術賞	16. 11. 20	
助手	機械工学科	竹元 嘉利			
講師	システム工学科	高岩 昌弘	計測自動制御学会 SI2004ベストセッション講演賞	16. 12. 19	
教授	システム工学科	則次 俊郎			
教授	システム工学科	宮崎 茂次	日本生産管理学会 創設発展功労賞	17. 3. 12	
講師	情報工学科	竹内 孔一	言語処理学会 第10回年次大会優秀発表賞	17. 3. 16	
助教授	機械工学科	大橋 一仁	2005年度精密工学会春季大会学術講演会 ベストプレゼンテーション賞	17. 3. 18	
講師	システム工学科	神田 岳文	2005年度精密工学会春季大会学術講演会 ベストプレゼンテーション賞	17. 3. 18	
教授	機械工学科	瀬沼 武秀	日本金属学会 功績賞	17. 3. 29	
教授	機械工学科	瀬沼 武秀	日本鉄鋼協会 学術貢献賞（三島賞）	17. 3. 29	
助教授	機械工学科	河原 伸幸	日本機械学会 奨励賞	17. 4. 8	
教授	機械工学科	宇野 義幸	日本工作機械工業会 優秀ポスター賞	17. 4. 11	
助手	機械工学科	岡本 康寛			
助手	機械工学科	出口 真次	日本生体医工学会 科学新聞賞・研究 奨励賞・阪本研究刊行助成賞・阿部賞	17. 4. 26	
教授	機械工学科	稲葉 英男	日本冷凍空調学会 学術賞	17. 5. 16	
助教授	機械工学科	堀部 明彦			
助手	機械工学科	春木 直人			
教授	機械工学科	富田 栄二	日本マリンエンジニアリング学会 技術賞	17. 5. 17	
教授	機械工学科	多田 直哉	日本非破壊検査協会 奨励賞	17. 5. 25	
教授	機械工学科	宇野 義幸	先端加工学会 研究論文賞	17. 5. 27	
講師	機械工学科	岡田 晃			
教授	情報工学科	金谷 健一	電子情報通信学会 論文賞	17. 5. 28	
助手	情報工学科	菅谷 保之			
教授	システム工学科	則次 俊郎	日本機械学会 ロボティクス・メカトロニクス部門 功績賞	17. 6. 10	
教授	電気電子工学科	塚田 啓二	未踏科学技術協会 第9回超伝導科学技術賞	17. 6. 23	

## [ 同窓会会計報告 (平成16年度) ]

岡山大学工学部同窓会の平成16年4月1日から平成17年3月31日までの平成16年会計年度の決算を報告いたします。

同窓会会計は一般会計と特別会計に区分されており、一般会計は会の中心的会計として入会金収入を基とし、会の運営経費の全てを含んでおります。特別会計は同窓会の記念事業費として一般会計と区分して管理しております。

### 一 般 会 計

### 収 支 計 算 書

平成16年4月1日から平成17年3月31日まで

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考	
I. 収入の部					
1. 入会金収入 会費収入	2,919,400	2,849,830	69,570	287名 { @9,940×17 @9,930×265 @9,880×5	
2. 寄附金収入 寄附金収入	0	498,200	△498,200	{ 電気工学科1期生 創立45周年記念事業	
3. 雑収入	125,000	202,577	△77,577		
受取利息	125,000	187,577	△62,577	普通、郵貯、有価証券	
同窓会名簿代	0	15,000	△15,000	名簿 { 2冊 (@5,000) 7冊 { 5冊 (@1,000)	
当期収入合計(A)	3,044,400	3,550,607	△506,207		
前期繰越収支差額	6,087,655	6,087,655	0		
収入合計(B)	9,132,055	9,638,262	△506,207		
II. 支出の部					
1. 事業費	2,211,400	2,047,212	164,188		
通信運搬費	894,000	875,565	18,435	会報、入会案内、名簿外郵送料 学科連絡委員会 会報、入会案内、封筒外	
会議費	150,000	114,229	35,771		
印刷製本費	987,400	990,638	△3,238		
助成金支出	100,000	0	100,000		
消耗品費	10,000	6,000	4,000		
同窓会活性化経費	60,000	60,000	0		
雑費	10,000	780	9,220		
2. 学科事業費 学科配分会費	441,000	430,500	10,500		287名 @1,500-
3. 管理費 業務委託費	360,000	360,000	0		(助)岡山工学会振興会
4. 工学部創立45周年記念事業費	500,000	1,129,248	△629,248		
当期支出合計(C)	3,512,400	3,966,960	△454,560		
当期収支差額(A)-(C)	△468,000	△416,353	△51,647		
次期繰越収支差額(B)-(C)	5,619,655	5,671,302	△51,647		

### 基金特別会計

### 収 支 計 算 書

平成16年4月1日から平成17年3月31日まで

(単位：円)

科 目	決 算 額	備 考
I. 収入の部		
1. 雑収入 受取利息	108,724	有価証券
当期収入合計(A)	108,724	
前期繰越収支差額	2,574,452	
収入合計(B)	2,683,176	
当期支出合計(C)	0	
当期収支差額(A)-(C)	108,724	
次期繰越収支差額(B)-(C)	2,683,176	

## 第5回工学部同窓会総会・講演会を開催

2005年4月29日（祝）、岡山ロイヤルホテルにて、岡山大学工学部創立45周年を記念して工学部同窓会総会・講演会・懇親会が開かれました。ゴールデンウィークの初日という日程にも関わらず、150名近くの参加者で楽しい一時を過ごすことができました。

まず同窓会総会が行われ、加藤珪一代表幹事の挨拶、東辻浩夫工学部長の「工学部の近況報告」の後、規約変更審議及び活動報告、財政報告、各学科の同窓会活動報告を行い、真剣な討議と質疑を経て無事終了しました。

続いて講演会があり、アイシン精機(株)取締役の藤森文雄氏（S46 機械卒）、中国電力(株)流通事業本部部長白髭修一氏（S44 電気卒）のお二人の同

窓生をお迎えし、お話をさせていただきました。いろいろな分野の実際の企業活動のお話は非常に面白く、また岡山大学工学部同窓生の社会での活躍を実際に見聞きすることで、改めて工学部のこれまでのあゆみを実感いたしました。

その後懇親会があり、工学部創立45周年を祝して賑やかに歓談し、久しぶりの再会を喜び合いながら盛会のうちに全ての行事が無事終了しました。

なお、同窓会総会の詳細ならびに当日の様子を写した数々の写真は工学部同窓会ホームページ (<http://www.eng.okayama-u.ac.jp/alumni/index.htm>)にてご覧いただけます。

### 工学部創立45周年記念事業 寄 附 者 一 覧

下記のとおり、291名の方々からのご寄附を賜りました。誠にありがとうございました。

<b>【機 械 系】</b>	s43 川田 忠義	s50 笹川廣太郎	s61 今井 健二	s48修 寺岡 一夫	s39 吉尾 哲夫
89人	s44 笠原 伸一	s50 識名 博之	s61 大坪 秀彦	s52修 内藤 俊一	s40 石川 達雄
s39 市田 捷之	s44 進藤 文典	s50 重田 和美	s61 立石 康司	H5修 中野 幸次	s40 奥村 稔
s39 岩田 宏	s44 谷村 和平	s50 千原 一夫	s61 馬場 信介	s63博 坂根 篤	s40 徳升 晶次
s39 高畑 邦彦	s45 岡本 幸男	s50 塚本 眞也	H1 高橋 智	H4博 宮西 希一	s40 畑本 一
s39 前田 芳宏	s45 金岡 俊男	s50 綿岡 志郎	H1 宮武 俊輔	H11博 李 中民	s41 大山 更青
s40 岸本 睦夫	s46 香山 裕	s50 山谷 純史	H3 池田 吉隆	榊原 精	s41 伊永 孝
s40 杉原 弘康	s46 末竹 義則	s52 加納 幸久	H5 茂森 昭博	鳥居太始之	s41 清水 健吾
s40 鈴木 紘行	s46 内藤 聖司	s53 林 敏弘	H5 鈴江 秀雄	吉田 彰	s42 澤 洋征
s40 仁木 将雄	s46 福原 廣二	s54 片岡 芳明	H6 春木 直人	鷲尾 誠一	s42 岸野 克己
s40 沼田 昭雄	s46 藤森 文雄	s54 門田 芳明	H7 青木 篤人	和田 力	s43 青井 圭吾
s40 御手洗政則	s46 藤原 豊	s54 坂本 雄二	H8 岡本 康寛		s43 赤井 浩
s41 江木 正典	s47 伊藤 達明	s54 中島 寛	H11 宮城 重明	<b>【化 学 系】</b>	s43 高木 武彦
s41 喜多 義範	s48 木庭 健二	s54 宮園 豊	H12 藤原 敏博	92人	s43 田中 秀雄
s41 佐藤 宏一	s48 杉井 睦保	s55 堀川 琢也	H13 佐藤 雄俊	s39 石井 武明	s44 安富 實
s42 佐藤 修	s48 西田 英弘	s57 宮武 勤	H14 藤原 人司	s39 井上堅太郎	s44 藤本 武夫
s42 竹上 昭	s48 浜本 隆夫	s57 矢野総一郎	H15 別府 靖之	s39 尾壽 弘	s44 安木 孝
s42 森本 照明	s49 三宅 正幸	s59 楠原 良嗣	H16 多々納悠司	s39 木村亮三郎	s45 尾坂 明義
s43 石井 泰三	s50 浅野 嘉徳	s59 武田 伸彦	H16 谷田 尉晃	s39 鳥村 薫	s45 喜多 悌治
s43 岡村 誠	s50 小林清太郎	s60 伊藤 美昭	H16 森田 真人	s39 板東 靖夫	s45 酒井 貴志



s45 佐古 秀典	s55 若村 恒夫	【電 気 系】	s53 前田 康雄	小西 正躬	H16 川西 裕也
s45 西出 勉	s57 越智 茂文	68人	s54 紫牟田和之	塚田 啓二	
s45 村上 有司	s57 檀上 由造	s41 岐部 宏	s54 高田 啓祐		【システム系】
s45 吉川 誠一	s58 大橋 伸夫	s41 玉木 亮吉	s54 豊岡 秀樹	【情 報 系】	11人
s46 井口 勉	s59 山本 眞則	s41 野崎 尚武	s55 浅野 肇	10人	H13 戸城 康貴
s46 福岡 時雄	s60 栗原 正樹	s41 馬場 啓丞	s55 森光 和也	H3 大西 淳	H13 福山 孝典
s46 牧野 和雄	s60 古谷 浩行	s41 原田 正憲	s56 青木 滋	H3 平山 浩二	H14 橋本 拓郎
s46 松木 統生	s61 小林 正則	s42 加藤 圭一	s56 大橋 和彦	H6 藤村 和夫	H15 岡崎 聡
s46 森 繁晃	s61 辻 雅孝	s42 阪田 隆司	s56 斎藤 忠夫	H9 竹内 康正	H15 福森 嘉孝
s47 金安 利和	s62 江田 卓司	s42 橋本 忠純	s57 梶谷 成雄	H10 西(洲脇)智恵子	H15 前田 朝康
s47 伊澤 英孝	H1 菊山 茂樹	s43 網島 宣武	s57 花房 浩二	H12 安達 雄一	H16 浦上 尚宏
s47 時々輪直樹	H2 長岡 典宏	s44 角南 修平	s58 魚森 謙也	H13 間田 康弘	H16 金本 孝泰
s47 前田 耕二	H3 川手 修	s44 白髭 修一	s58 前田 憲男	H13 光田 春花	大崎 紘一
s47 流郷 治朗	H3 林 茂也	s44 吉岡 正博	s60 竹内 順一	H14 坂井 孝江	井上 昭
s49 生田 福郎	H4 内田 哲也	s45 戸川 信吾	s61 中村 謙治	H16 赤澤 進也	五福 明夫
s49 川辺 博	H4 小川 啓一	s46 服部 正志	s62 中村 隆夫		
s49 小松 高行	H4 松谷 英史	s46 横田 吉雄	s63 香川 直己	【生 物 系】	【通 信 系】
s49 作本 博則	H5 加藤 博之	s47 大月 修	H1 三宅 勝	17人	4人
s49 橋本 健	H5 玄場 昭子	s47 中村 正博	H2 小林 弘和	H5 岡部 浩幸	H16 高橋 優介
s49 仁科 裕人	H5 辻 隆章	s47 三宅 正保	H4 宮下 卓也	H6 斉藤 道太	甲本 卓也
s49 西森 達雄	H5 満原 純也	s47 森下 洋	H5 上遠 進	H6 都留 寛治	古賀 隆治
s50 北島 康夫	H5 宮崎 修暢	s48 中川 健一	H7 尾崎 敏之	H6 宮田幸一郎	横平 徳美
s51 祇園 譲	H9 藤原 和子	s48 山本 憲夫	H8 井手 豊	H6 三野 光識	
s51 高田十志和	H9 宗澤 裕二	s49 高橋 則雄	H9 岸本 健	H7 中山 清貴	計 291人
s51 田口 豊郁	H10 林 克彦	s50 藏本 三樹	H9 中村 洋喜	H7 満倉 浩一	
s51 竹内 彰一	H10 道明 伸幸	s51 佐崎 進	H11 野崎 昌宏	H7 吉見 剛	
s52 逢澤 薫	H11 井上 智博	s51 佐藤 隆士	H12 峠田 直樹	H10 三木 善博	
s52 柴田 告芳	H12 谷川 洋之	s51 常広 隆司	H14 金森 克也	H10 横田 栄作	
s52 高尾 彰一	H14 泉 好古	s51 中桐 上雄	H15 平野 浩史	H11 池田 和正	
s52 渡部 一朗	H15 土居 義高	s52 長尾 茂洋	H16 佐藤 輝義	H13 桐島 昌吾	
s53 小倉 要	H15 矢ヶ崎秀雄	s52 松宮 功	H16 吉田 努	H14 田村 直久	
s53 兒子 晴一	武藤 明德	s52 吉澤 洋一	s54修 岡田 安晴	H14 宮田 幸平	
s53 吉松 英之		s53 黒岩 雅夫	H7修 酒江 英則	H14 柳居加奈子	
s54 周藤 章男		s53 竹原 淳	H6博 霜山 竜一	H15 木下宏一郎	

## 同窓会名簿作成のご案内

岡山大学工学部同窓会  
代表幹事 加藤 圭一

会員の皆様にはご健勝でお仕事などに就かれているものと拝察します。

岡山大学工学部は1960年に創立され、本年2005年に45周年を迎えました。

そのような中で、本年は同窓会としても5年ごとの「会員名簿」を発行する年となりました。同窓会員の情報交換、学生の就職時の情報入手手段としての活用を目的とするとともに、大学が独立法人となり益々同窓会との関係を強化する必要がある現在、名簿の必要性が高まっています。

このため、今回同窓会の決議機関である「学科連絡委員会」で名簿発行が決定しました。名簿発行に当たっては個人情報保護法に従い、皆様からの情報を名簿に掲載することの意思確認をお聞きした上で掲載するなど、適切な手段で行います。

なお先般「人事新報社」と言う出版社から「岡山大学工学部同窓名鑑」発行の案内があったかと思いますが、これについては本同窓会とは全く関係がありませんので、ご注意ください。

今回、同窓会名簿作成を委託する会社は見積り比較などを行った結果、姫路市平野町62「小野高速印刷株式会社 名簿出版事業部」(Tel:0792-81-8837)です。同社には、個人情報の管理についても十分注意するように伝えていきますので、当該会社から問い合わせなどがあっても、安心してお答えください。そして精度の高い名簿作成にご協力願います。

なお最後になりましたが、同窓会会員各位のご健勝をお祈り申し上げます。

## 同窓会会員の皆様へ

岡山大学工学部同窓会  
代表幹事 加藤 珪一

### 岡山大学工学部同窓会における個人情報の取り扱いについて

岡山大学工学部同窓会では、本年4月から個人情報保護法の施行に伴い、皆様方の情報につきまして下記のとおり対応させていただきますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

#### 記

##### ◎ 個人情報の管理

岡山大学工学部同窓会では、会員の個人情報を厳正に管理し、個人情報保護法に定める個人情報の取り扱いについて適用される法令及びその他の規範を遵守し、適切に取り扱います。また、事業の遂行上の必要性から業務委託を行う場合には、〈プライバシーマーク〉を取得している専門業者に委託するとともに、その管理・監督に努めます。

##### ◎ 個人情報の登録項目

氏名、卒業年度（修了年度）、学科（専攻）、〒、現住所・電話番号、勤務先・住所・電話番号などです。

##### ◎ 会員の個人情報の利用目的

「会員相互の親睦をはかり、岡山大学工学部の発展に寄与する」ために個人情報を利用いたします。

具体的には

- ① 同窓会名簿発刊（次回の発刊時に住所等の照会を兼ねて名簿の掲載事項について確認をさせていただきます）
- ② 同窓会会報の送付
- ③ 同窓会主催の総会等記念事業の案内
- ④ 同窓会支部活動、学科同窓会等の案内

等に利用させていただきます。

##### ◎ 第三者への開示・提供

登録された個人情報は個人情報の保護に関する法律その他の規範を厳守して安全管理をし、本人の同意なしに同窓会関係以外の第三者に開示・提供することはありません。ただし、個人情報の保護に関する法律第16条第3項に掲げる以下の場合には開示・提供します。

- 一 法令に基づく場合
- 二 人の生命、身体又は財産の保護のために必要がある場合であって、本人の同意を得ることが困難であるとき。
- 三 公衆衛生の向上又は児童の健全な育成の推進のために特に必要がある場合であって、本人の同意を得ることが困難であるとき。
- 四 国の機関若しくは地方公共団体又はその委託を受けた者が法令の定める事務を遂行することに対して協力する必要がある場合であって、本人の同意を得ることにより当該事務の遂行に支障を及ぼすおそれがあるとき。

##### ◎ 情報提供と変更

ご自身の情報提供は任意です。ただし、提供されない場合は同窓会からの会報送付、案内等をお届けできない場合があります。情報については原則として本人に限り開示、訂正、削除を申し出ることができます。この場合ご本人であることを確認の上訂正いたします。

##### ◎ お問い合わせ窓口

工学部同窓会に係る個人情報に関するお問い合わせ及び開示・訂正・削除については岡山大学工学部同窓会事務局までお申し出ください。

## 創造工学センターにおける学生支援活動 (ロボコン、フォーミュラ)

これまで、システム工学科と機械工学科がそれぞれ主体として活動していたロボコンとフォーミュラの両プロジェクトは、本年度に発足した創造工学センターの1部門である創造工学・MOT教育部門に所属することとなりました。両プロジェクトへの学生支援活動は、この部門を通じて具体的に展開されます。

ロボコンプロジェクトでは、現在、平成16年7月11日(日)NHK大学ロボコン2004にて準優勝した学生を含みますシステム工学科の1～3年生の20名を支援しています。本年は残念ながらNHK大学ロボコンへは書類選考落ちのため参加できませんでしたが、8月4～7日には、神戸国際展示場にてレスキューロボットコンテストのデモンストレーションへ参加しました。ここでは、製作した無線LANを利用した遠隔操縦可能なロボットを持ち込み、来場された方への説明および小さなお子様への操縦体験など、コンテスト参加では得られない経験をしました。また、11月には津山市で開催されます剣道ロボコンへ、各学年を中心とする3チームが参加します。当初、ロボットの機構のみしか興味のなかった学生が、ロボット制御の必要性から電子回路の勉強を始めるなど自主的な活動ができました。

フォーミュラプロジェクトでは、全日本学生フォーミュラ大会に参加するために学生有志が立ち上げた岡山大学フォーミュラプロジェクト (<http://powerlab.mech.okayama-u.ac.jp/~oufp/>) を支援しています。全日本学生フォーミュラ大会とは、社団法人自動車技術会が平成15年に設立したもので、排気量610cc以下の



NHK大学ロボコン2004準優勝

エンジンをを用いたフォーミュラカーを学生達自身で構想・設計・製作し、静的競技(コスト、プレゼンテーション、設計)、動的競技(アクセラレーション、スキッドパッド、オートクロス、エンデュランス、燃費)を競い合うもので

す。第1回大会は参加校17校であったものが、今年度の第3回大会では45校がエントリーしており、年々参加校が増加しています。第2回大会までは、中国・四国地方ならびに九州地方からのエントリーはありませんでしたが、本年度は我々岡山大学も含め、中国・四国地方から3校、九州地方から1校のエントリーがあります。今年度第3回大会は、9月6～9日に富士スピードウェイで開催されました(参照Webサイト<http://www.jsae.or.jp/formula/>)。この同窓会報が出版される頃には、結果がWebサイトでも公開されていることと思います。岡山大学フォーミュラプロジェクトでは、現3年生が中心に平成16年11月ごろから活動を行っています。現在は、学部1年生から3年生までが集まっており、計12人で活動しております。今年度はとにかく第3回大会への出場を目指し、「車体製作の基礎を学ぶ」を方針に活動しています。



全日本フォーミュラ大会エントリーカー

今後は、両プロジェクトとも、学科、さらには学部の壁を越えたメンバの募集を行い、多様な学生が自分の専門領域を活かした活動のできるモノづくり教育の場へと発展させてまいります。ただ、これらの活動には多額の費用がかかります(フォーミュラ 500万円/年、ロボコン 10～30万円/回)。卒業生の皆様で、このような学生の活動のサポータになってやろうという場合には、物品、資金などをご提供いただければ、よりよい活動を継続できるはずです。フォーミュラ、ロボコンともに同窓会Webサイトに詳細を示しております。是非、ご支援の方、よろしく願いいたします。

創造工学センター 創造工学・MOT教育部門  
 部門長：塚本真也(副学部長、機械工学科教授)  
 ロボコン担当：宗澤良臣(システム工学科助手)  
 フォーミュラ担当：河原伸幸(機械工学科助教授)



## 工学部同窓会ホームページ

<http://www.eng.okayama-u.ac.jp/alumni/index.htm>

工学部同窓会ではホームページを通じてみなさまにいろいろな情報をお届けします。ホームページを充実させるためにみなさまからの情報を募集しています!

- ・同窓会関係の行事のお知らせ
- ・みなさまの近況
- ・同窓生の方がお持ちのホームページへのリンク
- ・同窓生による寄稿（文章、写真など）

その他なんでも結構です。是非工学部同窓会事務局 ofst@cc.okayama-u.ac.jpまでお知らせ下さい。工学部同窓会ホームページへのご要望もどンドン事務局の方へお知らせ下さい。

工学部同窓会ホームページから現住所などの情報の更新を行えるようにして欲しいとのご要望をいただきましたが、個人情報保護の観点から十分なセキュリティを保証できないということで対応できておりません。お手数ですが、住所変更などのご連絡は、電話、FAX、郵送などで事務局の方へお願いします。

## 同窓会事務局より

### 支部活動の助成について

次のとおり支部活動を助成します。幹事、あるいは岡山工学振興会内・岡山大学工学部同窓会(086-255-8311)へ御連絡ください。

- (1) 100人程度を超えるような支部が総会、懇親会等の活動を行う場合に助成する。
- (2) 通信連絡に必要な経費として180円/人・回を助成する。
- (3) 懇親会等の会合に要する経費として50,000円/会を助成する。

### 同窓会報への寄稿などのお願い

会員の方々の寄稿、意見等をお寄せくださいますようお願いいたします。

●職場報告：600～1200字程度 ●会員グループ報告：600～1200字程度 ●最近の研究から：8000字まで（図・表を含む）

●会員短信：800字以内（近況、随想、会員や恩師への祝辞、思い出等） ●通信：400字以内

いずれも写真（顔写真あるいは関連写真）を合わせてご提供ください。

なお、いずれの寄稿につきましても、編集幹事一同の判断により、紙面の都合上内容を損なわない範囲で一部を変更、削除させていただくこと、また極端に内容が不都合であるものについては掲載をしないこと、などをさせていただくことがありますので御了承をお願いいたします。

## 編集後記（同窓会報第17号に寄せて）

会報も、今回で17号となりました。平成17年3月をもちまして、機械工学科・山本恭二先生、システム工学科・廣田和弘先生、環境理工学部・名合宏之先生（旧土木工学科から転出）がご退職されました。また、6月には河野伊一郎先生および大崎絃一先生が、それぞれ学長、副学長の任期を満了され、ご退職されました。先生方の長年にわたるご指導、ご功績に対し、心から敬意と謝意を表しますとともに、今後一層のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。ご退職された先生方に加えて、6月から副学長に就任されておられます機械工学科・稲葉英男先生からも、メッセージを頂きました。ご多忙中にもかかわらず、本会報にご寄稿頂きました諸先生方に、改めてお礼申し上げます。大崎先生、山本先生、廣田先生に対する思い出をお寄せ頂きました梶原康博先生、柳瀬眞一郎先生、五福明夫先生にも感謝申し上げます。

本年度の学科紹介は、電気電子工学科および情報工学科にお願いし、職場紹介はシステム工学科および通信ネットワーク工学科の卒業生からご報告頂きました。巻頭言をご執筆頂いた東辻浩夫工学部長をはじめ、原稿執筆をご快諾頂きました高橋則雄先生、谷口秀夫先生、野村隆氏（芝浦メカトロニクス株式会社）、平本琢士氏（松下電器産業株式会社）に感謝申し上げます。

独立行政法人化2年目を迎えた平成17年4月からは、部局化によって組織が大きく変更され、工学部の全教員が大学院自然科学科に配置換になりました。工学部の業務は、兼担しています。慣れ親しんだ各研究室の名称も変わり、違和感を感じられる卒業生の方もいらっしゃるかも知れませんが、改革の一環ですので、ご理解を賜れば幸いです。今後も今まで同様に、ご助言、ご支援を頂きますよう、宜しく願い申し上げます。

学内代表幹事・藤原 耕二（電気電子工学科）